

A Message from President Glenn

2004-05

A Message from President Glenn

■ RI 会長メッセージ

質の高さを 証明する職業奉仕

RI 指定記事

親愛なる同僚ロータリアンの皆さん：

1912年にロータリーの創始者であるポール・ハリスは「人間が行う事業は人間の表現で最高、かつ、信頼に足るものであるというのが、ロータリアンの考え方であります。ロータリークラブ会員の品性は高く保たれなければなりません。なぜならば、ロータリークラブの会員があなたや私自身の友人と友達になるからです」と記しています。

この言葉は、それが書かれて100年近くたった今日でも当てはまります。職業奉仕は他のすべての奉仕部門とはひと味違った私たちの組織の質の高さを裏付けるものなのです。

ロータリーの創始以来、ロータリアンたちは常に公明正大な事業の運営と高い倫理基準を主張してきました。企業のオーナーとして、ロータリアンたちは人々の信頼を勝ち取り、でき得る限り優れた製品やサービスを提供しようとしてきました。自らがしてきたことと自分の従業員たちを誇りに思ってきたのです。

会員の多様性が

ロータリーの長所の一つ

10月に職業奉仕月間を記念するに当たって、私はロータリアンたちに、自分の事業および専門職務を通じて、それぞれの地域社会に貢献することを、お願いします。ロータリーの大きな長所の一つは、会員の多様性です。

ロータリアンたちは、その地域社会や外国の人々を援助するために、医療、科学技術、教育、農業、



Glenn E. Estess Sr.

グレン E. エステス Sr.

2004-05 RI 会長 アメリカ・シェイズバレー RC



CELEBRATE
ROTARY

100 Years

その他の職業的専門知識を利用することができま
す。クラブ会員たちは若者たちへの助言者、機能的
識字率の向上、小口企業プロジェクトのスポンサー、
あるいは、若者や心身障害者への仕事の提供者とし
て奉仕することも可能です。

RI のロータリー財団は、職業技術の向上を援助
する何百というプロジェクトを応援しています。そ
のことによって人々は仕事を学び、自立していく
ことができるのです。あなたは、あなたも持っている
能力をロータリー・ボランティアとして活動したり、
特別な職業に焦点を当てたロータリーの親睦活動に
参加したりして、職業上の能力を生かすこともでき
ます。

ロータリアンたちは 高い企業倫理を維持

企業スキャンダルと怪しげな事業が横行した時代
に、ロータリアンたちが高い企業倫理を維持したの
は大切なことです。商業施設を訪れ、壁に掲げられ
ている「四つのテスト」の盾を見かけると、いつも
うれしい気持ちになります。それは、顧客に接する
マネジャーかオーナーがロータリアンであることを
示しています。そして、約束の期限内にいい仕事を
するだろうという信頼感がもてるのです。

100 周年のこの年度は、正直に社会的責任をもつ
て行動する企業のリーダーたちを認識するには理想
的なときです。今年度、私たちはロータリアン以外
の人々の、ロータリーの理念に合致した、顕著な専
門的業績を表彰するためにロータリー 100 周年記

念専門職務奉仕賞を設けました。私たちは、それぞ
れの分野で高い倫理基準、専門的な特質の達成、人々
の訓練や助言などに実力を発揮した地域社会のリー
ダーたちを表彰したいと考えています。

職業奉仕を通して ロータリーを祝おう

私たちが新しい奉仕の世紀に入った今こそ、職
業奉仕を通してロータリーを祝おうではありません
か。レイモンド・ヘブンス元 RI 会長が 1922 年に
「企業倫理の先駆者として、ロータリーは、真の奉
仕とは“地上に平和を、人々にいつくしみを”につ
いての自己責任を意味するというメッセージを世界
中に贈る」と述べていますが、それは今日にも適用
し得るメッセージです。

Glenn E. Estess Sr.
2004-05 年度国際ロータリー会長

Annotation

ロータリー・ボランティア (Rotary Volunteers)
国際ロータリー (RI) の職業奉仕部門のプログラム。ロー
タリアン、ロータリアン以外の人々に、ボランティアを行
う機会を奨励、専門知識・技能をもったボランティア探し
を手伝ったり、ボランティアが効果的に行われるようにし
ます。『手続要覧 2001 年』P 75 参照。

過去に基づき 未来に焦点を

2002-03 年度国際ロータリー会長

ビチャイ・ラタクル

2004 年国際協議会講演要旨



ロータリーを際立たせるものは、職業分類の原則。これがロータリーの基本的な特徴であり、ロータリアンおのおのに、社会生活において常に要求されている倫理規範を守ることを表明する特典を与えるものです。

ロータリーの第2世紀に近づきつつある今、私たちは新しい世紀の幕開けに心を弾ませ、ロータリーを、善をもたらす真の力にしたいという意欲にかられています。この創立100周年記念日には、疑いなく畏敬の念を起こさせるものがあります。100年とは、価値と実績という後光と勝利した闘いと目標達成の記憶で飾られた輝かしい年月です。個人の人生で、100年は長い長い年月で、そうそう誰もが迎えることのできるものではありません。しかし、組織の一生として考えたとき、100年という月日は全体の中のごく小さな断片にすぎません。

ロータリーは何度も若返ることができる

来年の2月23日に、創立100周年を迎えるにあたり、私たちは少しも速度を落とすことはないでしょう。そして、これまでに得たあらゆる知識、友情、資産などを享受していくことでしょう。この歴史的な節目を迎え、このときは、一息ついて、吟味するとき、これまで歩んできた道、通りすぎた道しるべを振り返るときです。何にも増して、ロータリーの奉仕の理想と親睦が国際的に受



シカゴロータリークラブが設置した公衆便所

け入れられたことを驚嘆する機会でもあります。

明らかに、互惠取引というロータリーの概念は、当初の人気と成長に大きく貢献したかもしれません。そのことにより、シカゴだけではなく、ほかの都市や海外へと拡大していきました。しかし、ロータリーの物語をひもといてみるとおわかりのように、仕事上の自分自身とクラブ仲間への奉仕という基本概念が、生活のすべての面における他者への奉仕と援助へと、そして究極的に全人類への奉仕というさらに崇高な理想へと高まっていきました。他の人を助けることを行動で示す者に、いみじくも商売が潤うということにロータリアンが学んだとき、強調点が「受けること」から「与えること」へと変わりました。

しかし、100周年は単に過去を振り返るときではありません。現在を見直すときでもあります。今日私たちがどこにいるのか、今私たちは何をしているのか、そして正しい方向に向かっているのか、を検討するときなのです。100周年は、将来について考え、新しい目標を設定し、新しい挑戦事項に立ち向かうときです。

ロータリーのような組織には、生身の人間にはない一つの利点があります。それは創立からの長い歴史を祝っていても、それ自体が年をとるということはないということです。何度も若返り、時代とそのときどきのニーズに合わせて変わっていくことができます。影響を広げ、成長し、豊かな活力をもち続けるかぎり、100年でも1000年でも成長し続け、広がり続け、奉仕し続けることができるのです。

質問いたします。私たちはロータリーが真に豊かな活力をもっていると確信しているでしょうか？ もちろんです。

私がこう申し上げるのは、ロータリーの豊かで尊敬される過去の裏には、100年にわたるロータリーの奉仕の物語が、他者のニーズに心配りをしながら個々の職業を通して地域社会に貢献してきたロータリアンの物語が

あると固く信じているからです。この物語を詳しく語ろうとしても無理でしょう。100年の間には非常に多くのことが起こりました。あふれるほどの思いやり、心配、親切が注がれてきましたから、このような短時間ではとても語りつくせません。

しかしながら、ロータリーの偉業のハイライト、1世紀にわたる市民奉仕については、少なくともこのことだけは述べなければなりません。創立当初は、ロータリーは非常につましやかな活動から始まりました。シカゴ・クラブが最初に興味を示した社会奉仕は、市役所の公衆便所設置を援助することでした。これに続いてご存じのように、さまざまな社会奉仕プロジェクトが行われました。おそらく知らないうちに、初期のロータリアンは、その後発展するロータリーの運動と組織の特徴や原理を形づくり始めていたのでしょう。

最も偉大なRI会長の一人である故ジェームスL・ボマーJr.の言葉を引用しましょう。「今日、奉仕志向のロータリアンの善意が明るく輝いています。私たちは、1905年以来慎重に作られてきた“道具と規則”で強化されて未来に向かいます」

では未来とは何でしょうか？ロータリーがすでに展開してきているプログラムをよく見れば、未来に広がる機会が見えてきますし、善意ある人々があふれる世界に向けて着実に進んでいくと、楽観的に確認することができます。それでも、油断は禁物です。人生には思いもかけないことが次々と起きるからです。ポリオとの闘いには勝利するでしょうが、あらゆる病気、非識字、貧困に対する闘いにも勝利しなければなりません。私たちは世界で善をなす可能性を確実なものとするために、絶えず気を配っていなければなりません。

しかし、私が申し上げたことは、立派なことではあっても、「外向き」のやってきたことを見ているにすぎません。同じような希望と意欲をもっていた前の世代のことをしっかりと記憶にとどめ、将来に目を向けるとき、私は、活発な奉仕団体を期待しながら、その実現を見なかった世代が多いと感じずにはられません。

私たち自身の「内面」を見てみましょう。私が申し上げるのは、近年ロータリーが直面する最も重大な課題でありながら無視されてきたものです。長年言及もされず、討議に上らなかった課題—それは職業奉仕です。そうです。ロータリーは、その優れた多くの人道のおよび教育的プログラムで困難を乗り越えてきたことを誇ることができます。確かに人間の活動の多くの分野で目覚ましい進歩を遂げてきましたが、物質的、精神的な意味で、私たちの事業および専門職務はスキャンダルや腐敗行為に

病んでいるということを認識することが大切なのです。

道徳的水準の低下はビジネスにおいても政治においても、多くの分野で目に見えるものであり、社会全体に急速に広がっています。ある事件が特に世界に衝撃を与え、組織の運営責任者の誠意と威厳に疑問を投げかけました。私が話しているのは、倒産し、そのあげく巨大会計監査法人アーサー・アンダーセンを破綻に追い込んだエンロン社のことです。

この企業がわずか16年間で世界最大のエネルギー取引企業になり、1,000億ドルの年収を上げるようになったとは信じ難い事実です。実業界最大のスターでした。しかし、わずか1年でその輝きが突然消え失せました。高慢な野心と仰天するほどの会計の粉飾が、経営陣の無理な会計原則とともに暴露され、米国の企業史上有数の大破綻につながりました。疑いもなく、エンロン社は大変成功していました。しかし、ロータリーの多くの例があるように、エゴと貪欲^{どんよく}があらゆる階層のリーダーを、常軌を逸する行動にけしかけたのです。

世界のいくつかの地域で私が見聞きしたことによれば、このような行為は「職務への献身」から「目先の利益分配の探求」へと変容してしまったことを意味しているのかもしれませんが。貪欲と利己主義が公益に対する配慮にとって代わっています。この傾向をどうすれば変えることができるでしょうか？少なくとも社会やロータリーで、これ以上の蔓延^{まんえん}を防止するために何ができるでしょうか？ロータリアンに限っていえば何ができるか見てみましょう。

ロータリーを際立たせるものは職業分類の原則

私たちは皆、ロータリーを際立たせるものが何か、ロータリーと他との違いは何なのかを知っています。それは職業分類の原則です。私にとって、これこそがロータリーの金看板なのです。これがロータリーの基本的な特徴であり、ロータリアンのおおの、社会生活において常に要求されている倫理規範を守ることを表明する特典を与えるものです。

私たちの会員基盤がこのようにさまざまな事業および専門職務から構成されているおかげで、私たちはどのような問題にも多角的に取り組む方法を選ぶことができます。すべての事業、すべての専門職務に共通の課題は、人々をどう扱うかにあります。人々に対する私たちの態度と取り組み方が最も重要なことです。さらにロータリーには、個人と個人、企業と企業、国家と国家の関係に、2つの貴重な要素をもたらす、すばらしい機会があります。この要素とは、誠意と共感です。

お互いの高い倫理的水準は、常に職業奉仕の至上の目標であり続けてきました。しかし、このロータリーの際立った特徴は個々のロータリアンの行為を通してのみ示され、認識されるものです。ですからロータリアンが自分たちの組織の理想と目的を自らの態度、社会的行動、市民ならびに職業人としての役割に反映させなければ、私たちの住む世界をより良いものにするという目標に到達することはできません。

理論としては立派だが、現実的ではないとおっしゃるかもしれません。ロータリーは、人に道徳的で誠意ある行いをするよう教えるとは公言していないと思います。ロータリーの目的は、既に認識されている事業および専門職務上の生活にそれらを適用することを奨励することだと思います。ロータリーは多岐にわたる原則を思い起こさせますが、その解釈と応用は、ロータリアン個人とその良心の間の問題です。

最も重要なことは職業倫理の向上

では職業奉仕とは実際に何なのでしょう？ この質問には答えが2つあります。

第一に、自分たちが仕事を行う上で奉仕の理想を体現すること、第二に、自分たちの事業および専門職務において知り合ったロータリアンではない人々に奉仕の理想を分かち合うことです。もしロータリアンにこれができなければ、ロータリーの主要目的は挫折します。

したがって、大きな責任が会員増強委員会に課せられていることとなります。もし間違ったタイプの会員が入会すれば、職業奉仕は確実に地に落ち、ロータリーの世界的な名声も傷つきます。世間の目から見れば、数人の質の低い会員のせいで組織全体の信用を損なうことになるのです。私は、ここ数年来、多くのケースを目にしてきました。そうです。職業奉仕は個人の生活にとって基本的なものであり、恐らく、職業奉仕ほど、各ロータリアンがその理想と、市民として人間としての有用性をこれほどよく表現できる分野はないでしょう。

そうです。職業奉仕は誠意と信頼です。職業奉仕は、一般社会の人々の間だけではなく、さらに重要なことには、ロータリアン同士の間で、事業や専門職務における水準の向上を目指します。

残念ながら、私たちの多くはロータリー哲学のこの最も大切な神髄を忘れてしまっています。自分たちの事業と専門職務において、さらにはロータリーの仕事においてさえ、倫理と誠意を当てはめることをわざと無視してきたとは、何と恥ずべきことでしょうか。

ポール・ハリスは、職業奉仕とは、各ロータリアンが

その職業において最高の道徳的水準を保つことだと定義づけました。そうです。職業奉仕で最も重要なことは、職業倫理の向上です。そしてこの奉仕にとりかかるにあたり、私たちは断固として、しかし慎重に事を運ばなければなりません。

何年も前のことですが、日本の東ヶ崎潔元R I会長がこの件でよい話を聞かせてくださいました。情熱的な若いロータリアンが街の実業家を訪ねて、不正広告をやめるよう断固とした態度で諫めた話です。次の日、この若いロータリアンは、自重した様子で、目の周りにあざをつくって例会にやって来ました。はたして彼は、国際奉仕委員会への移籍を要請したのです。それは、彼が今の職業奉仕の仕事より安全だと思ったからです。

私は皆さまがこのような極端な手段に訴えることを望んでおりませんが、この逸話は、この奉仕部門の特徴を端的に表現しています。皆さまは、職業奉仕をどのように定義されますか？ これは他の人にどうすべきか告げるばかりではなく、自分自身の日常生活において、倫理と誠意の基準を実践することです。

ロータリー入会の推薦を受けた理由は、あなたこそがその職業分類において、職業を代表する資格がある人物だと誰かが信頼してくれたからです。私たちは、この信頼を決して裏切らないようにしなければなりません。ハーバート・テラー元R I会長の提案した四つのテストがロータリーに採択され、受け入れられたとき、尊敬すべきロータリーのシニアリーダーの脳裏には、実際にどのような思いがあったのでしょうか？

これはビジネス慣行における手引きを与えるものと考えられていたと思います。当時も現在も、これは私たちの私生活や職業生活において行われる決定を計る優れた物差しです。それは、もし四つの質問すべてに「はい」と答えて決定を行うことができるなら、正しい軌道にあることを確信し、自信をもって前進することができるからです。

しかし、過去にもそのようなことがあったように、社会は、今再び、その規模の大小を問わず、企業やロータリーを含む非政府組織（NGO）の運営における誠意と透明性を疑問視しています。ロータリーで討議される倫理と誠意は、多くの人に関心のある話題であり、近ごろ多くの地域で見られる事柄が、倫理と誠意に対する関心を高いものにしています。四つのテストを説教するよりも実行する必要性が今ほど高まったことはない、と強く感じています。

四つのテストは明らかにロータリーにおいて、そして全世界のロータリアンによって、実践されることができ

CELEBRATE ROTARY 2004 - 2005

ます。このように競争の熾烈な時代には、ロータリーの綱領や四つのテストの規定する原則を維持することは不可能だと考える会員にも会ったことがあります。理由を尋ねると、商売を失い、利益が減るといった答えが返ってきました。

イギリス・ロンドンのある高等法院判事は、「紳士協定」をこう定義しています。自分の責務を履行するつもりのない者が、相手は約束した責務を残らず行うものと期待する非紳士間の協定だと。

これは私たちが物事を行うやり方でしょうか？ 金もうけが人生の最も重要な目的でしょうか？ 金銭、富、財産、社会的地位—これらが再検討される必要があるとあえて申し上げます。それらに存在意義と価値があることは言うまでもありません。今日、不幸にも、理論においても実践においても、人々はこれらが至上であり、最高であると主張しています。率直に申し上げると、富は幸福、安らぎに続く二次的なものなのです。そして正直さと誠意をもって、成功した人々を評価する新しい方法が必要だと提案いたします。

職業奉仕はロータリーとロータリアンの良心

私がタイの大学に基金を寄付し、場合によっては爵位を受け、ロータリークラブの会員であったとしても、それだけではロータリアンとは言えません。ロータリー財団に米貨10万ドルを寄付して大口寄付者になっても、100回ポール・ハリス・フェローになっても、それだけでロータリアンになれるものでもありません。

ロータリアンになるには、常に家庭でも、職場でも、職業でも、いつも誠実さ・公正さ・礼儀正しさを知っているばかりではなく、その道徳的水準をさらに高めなければならないのです。

このような協議会では、職業奉仕という高い理念を口先だけでたたえておしまいになりやすいのですが、これらの理念を行動に移す意思がなければ、全く無駄なことです。私たちが四つのテストを信じると言いながら、同時に自分の中身よりも持ち物により大きな関心を向けることは全くの偽善行為です。

最近、グレン・エステス会長エレクト（当時）は、ロータリーのシニアリーダーからロータリーの倫理と誠意についてどう思うかという質問を受けました。

「貪欲とエゴが、リーダーを常軌を逸する行動へと走らせました」と、彼は答えました。「いつ許すべきでしょう」。彼は答えました。「許すことはできますが、それは『いつ忘れてくれるか？』という質問と同じことではないで

しょうか」。

大金を失ったエンロンの株主は長い間忘れることはないでしょう。同様に、一人のロータリアンが羽目を外したことがわかれば、ロータリアンがそのことを忘れるまでに長い時間がかかります。これは悲劇的ですが、現実なのです。覚えておいてください。自制心を失った者は、誰もが忘れることができないことをやらかしてしまいます。決して自制心を失わないでください。

私たちが着けている小さなロータリーの徽章は、何かを象徴していないのであれば無意味です。職業奉仕は私たちの試験場です。これは個人的であり、私的です。ロータリーとロータリアンの良心です。

ラジャ・エンドラ・サブーン元RI会長の、昨年ブリスベンの国際研究会での言葉を引用します。「かつて、ロータリーは倫理的価値を求めて立ち上がりました。ロータリーは今、時代と社会状況の求めに応じて再び立ち上がるのをえません。時代は変わっても、誠意の定義は変わることはありません」

友人の皆さま、皆さまが職業奉仕を真摯に受け止め、それが私たちに要求することを受け入れれば、友好的で、信頼でき、親切な男女から成る私たちの運動の影響は増大し続けます。この一年は私たちが心を注ぐだけ、報いの大きいものとなります。私はそれを心から望んでいます。そして皆さまがそう望んでおられるのを知っています。そして、ロータリーの奉仕の河はロータリアンが自らを与え続ける限り流れ続けると私たちは確信しています。それは決して干上がることのない河です。

ロータリーを祝いましょう。この100周年を、回顧のためだけでなくもっと大切な前途探索のための画期的な節目として、好機として考えましょう。世々にわたり、これこそ最良の時だったと語り継がれるように。

共に働く Working together

R I 指定記事

THE ROTARIAN 10月号から

『THE ROTARIAN』編集部

キャスリーン・プラット

体の不自由な人に 雇用機会の創出を

ロビン・アクトン氏の娘、エリンちゃんが幼稚園に通っていたころのことで、同じ組の園児たちが、それぞれ『わたしのこと』という、自分の好きなことや嫌いなこと、家族や友達、願いごとや夢について描いた色彩豊かな冊子を完成させました。アクトン氏は娘が書き込んだその作品の1ページ1ページに目を通しながら、誇らしく思いました。ところが、「大人になったら、なりたいもの」について書き入れる最後のページまでくると、そこには何も書かれていません。

彼女は日ごろ、わが子が夢をもてるように育ててきたつもりだったと自負していましたが、そうではなかったことを突きつけられたのです。彼女は、その瞬間を「目覚めのとき」だと言っています。アクトン氏はそのページが完成されずにいたいくつかの理由に思い当たりましたが、エリンちゃんに発達障害があるということで、白紙のページが象徴するもっと深刻な理由にたどりついたのです。そして、自分がいつまでも娘のそばに寄り添って力になってやるができないのだとあらためて実感し、アクトン氏は、一層気落ちしました。

「その出来事は自分がわが子に夢を与えてこなかったのだということを深く悟らせる結果となったのです」とアクトン氏は振り返りました。「私は、娘が、夢をはぐくんでくれる人たちに

囲まれているようにしなければなりませんでした」

アクトン氏はそれ以来、エリンちゃんのような若い人たちが夢をもてるように積極的に取り組んでいる大勢の人たちと巡り合いました。

彼女は、カナダ・サスカチワン州のロイドミンスターロータリークラブ(RC)会員ですが、この3年間、ロータリアンの仲間たちは、素晴らしい雇用パートナーシップを通して、障害をもつ人たちのための職探しに努めており、非営利団体「アルバータ協会(Alberta Association for Community Living; AACL)」や州政府の「発達障害の(Persons With Development Disability; PDD)」と手を取り合って、障害をもつ人たちの職の創出や職場探し、そして彼らの雇用主に対する支援を行ってきました。

アクトン氏は、この活動の最も強力な支援者の一人ですが、「私たちはすべての子どもたちが、すべての大人たちと同様に社会に属しているのだと考えています」と、言います。

この事業の立ち上げに手を貸したカナダ・アルバータ州のエドモントンメイフィールドRC所属のウェンディ・マクドナルド氏は、アクトン氏の考えに共感しています。マクドナルド氏と彼女の夫のブレインさんには10歳と22歳の2人の息子がいます。下の子のカイル君は目が不自由で、発達障害もあります。マクドナルド氏は、自分が障害の問題と直面してきましたが、アルゼンチンのブエノスアイレスで開

催された2000年R I国際大会において、フランク・デブリン元R I会長が障害をもつ人たちのために雇用機会を創出する必要があることを説いたスピーチを聞いて初めて、ロータリアンがその問題に関与できることを知ったのです。

「デブリン元R I会長の話を聞いて、私の中の二つの世界が一つに結びついたと思いました」と彼女は言います。「もはやそれらは別々のものではなくなっていたのです」。マクドナルド氏は直後に、2000-01年度クラブ会長として就任することになっていましたが、デブリン元R I会長のビジョンに沿ったプロジェクトを立ち上げようと固く心に誓ってホームクラブに戻りました。

ロータリアンが行うからこそ 意味がある

彼女は早速、AACLのブルース・ウディツキー取締役理事と、当時アルバータPPD理事会CEOのノーム・マクレオド氏に連絡をとりました(マクレオド氏はその後、政府の要職を退き、AACL理事会のボランティアメンバーとして活躍しています)。彼らは互いに協力して、ロータリアンが自分たちの地域社会で求職中の発達障害者のために職を創出するよう率先して活動を始めました。

「実業界との太いパイプをもつロータリアンが行うからこそ意味があるように思いました」と現在、このプロジェクトの委員長を務めるマクドナ

ルド氏は言っています。この雇用促進活動は、すべてロータリアンの経営する事業所の中から、30以上の職を提供してきましたが、発達障害者の雇用促進事業に取り組んできた組織の人たちは、1つの仕事の確保までに、時として200回もの冷たい返事を聞かなければいけないという現状にあって、ロータリアンとともに進めているこの活動の成功率は予想以上に高いと評価しています。

「私たちは早いペースで職を見つけ出しており、北アメリカの中でも例をみないほど成果を上げています」と人事担当の経歴をもつマクドナルド氏は言います。彼女が人事管理をしていたときは、このような協力関係を組むような機会がありませんでしたが、もしも当時、就職担当者から同じような申し出があったとしても、簡単に断っていたに違いなかったと言います。しかし、ロータリアンがロータリアンに発達障害者を雇ってほしいともちかけた場合、違った力が働くのだと彼女は話してくれました。

「私がロータリアン仲間にこの話をもちかけると、彼らはじっくり聴いてくれます」。そして、いったん理解をすると、多くはこの活動がとても素晴らしいものだというのをわかってくれると、彼女は言います。その見返りは多いのですが、一方で、例えば新たな従業員の給料支払い簿への記載といった通常の経費以外には、余分な経費が発生することはありません。

「私たちはロータリアンに対して、当プログラムのために彼らの職場を開放できるか否か、以外のことは聞きません」とマクドナルド氏は言います。もし、発達障害者に職場を開放できたら、ロータリアンは忠誠心が高く、熱心な新しい働き手を得られるということになるわけです。さらに、発達障害をもつ従業員に仕事を配分するということは、雇用主が数人で分担していた総務関連の業務や事務所全般の機能を

身体障害者の雇用を支援するロータリークラブやその他の組織の活動を協賛する、事務用品会社、コーポレートタイプエクスプレス社



統合・強化できるという結果に結びつき、会社の同僚たちはそれぞれ自分の専門領域にかかわる仕事に集中でき、より効率的な職場の環境づくりが進められるのです。

「これは経営上、英断といえるでしょう」。マクドナルド氏は、一般の人たちが体の不自由な人々と交流するときは、大抵、いつもより寛容で思いやりをもてることを指摘します。「これは組織にも影響を与えます。つまり、企業風土を変えるのです」

管理者によると、この活動のカギになるのはロータリアンだと言います。「私たちは雇用機会の創出のために、実業界からの支援を必要としています」とAACLを通じて、プロジェクトに携わるようになってからロータリアンになったウディツキー氏は言います。「ロータリアンを抜きにしては、この活動は語れません」

自分の能力と長所を生かせる職場で働く

ウディツキー氏と夫人のドナ・バレットさんは、夫婦でエドモントン・サンライズRCの会員になっていま

すが、雇用主と従業員双方の取り組みとそれぞれにもたらされる恩恵は、その組み合わせによるところが大きいことを知っています。彼らには27歳のジャレッドさんと、発達障害を抱えながら地元の映画館で働く26歳のトッドさんという2人の息子がいます。トッドさんは障害をもつ人たちのための職業訓練を提供する雇用支援事務所による訓練を経て、仕事を見つけることができました。

トッドさんのように雇用パートナーシップを通じて職に就いた発達障害をもつ人たちは、自分の能力と長所を生かせる職場で働いています。エドモントン地域のある人は、マーケティング調査会社に勤めています。また、コンピューターの補修管理やトレーニング・パッケージの準備、データ入力を行うソフトウェア会社に勤めている人もいます。この活動の開始以降、エドモントンメイフィールドRCは、受付のパートとして、体の不自由な人たちを数人雇いました。

エドモントンメイフィールドのロータリアンで、大手国際保険代理店の地方営業所を経営するミヒヤエル・ブラ

ンディングン氏は、ロータリークラブの受付を採用するための面接を行った委員会で活動していたのですが、その後には障害をもつ人を総務担当補助職員として採用しました。彼は自分が雇ったソフィー・コーネルさんについて、結果としてきちょうめんで、目を見張るほどの顧客サービスを提供する忠誠心の高い社員だと評価しています。

「彼女の存在によって、会社の雰囲気以前より和らぎ、なごやかになりました」と、クライアントもコーネルさんの仕事に対する誠実さと熱意に感謝していると、ブランディング氏は言います。「(クライアントは) いつも少し個人的な話をつけ加えます」と彼は述べます。「保険会社に朗らかな顔が見られるということは、気持ちが良いものです」

郵便物の仕分けをする仕事は、26歳のコーネルさんにとって、はじめて収入を得た仕事ですが、ブランディング氏の会社で働けることを彼女はとても幸せに思っています。彼女は事務所の4人の同僚たちと過ごすことが何よりも楽しいと言います。「彼らはとってもいい人たちよ」とは彼女の弁です。

職場の提供は お互いに利益を得られること

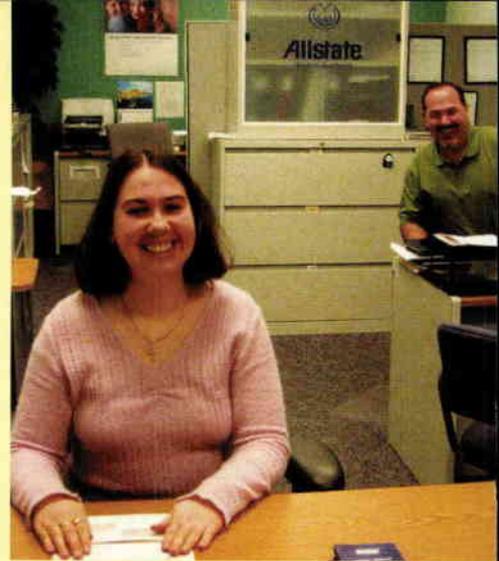
雇用パートナーシップは、アルバータ州の2つの地域に広がり、現在はエドモントン地域のほとんどすべてのクラブがかかわるようになりました。ワシントン州のロータリアンは、同じような活動を始めることに関心を示していて、まとめ役は今年の終わりまでに少なくとも30以上のクラブが参加することを予定しています。ウディツキー氏によると、仕事をする中で自信をもたせ、人間関係を教えるうえで重要性を理解しているロータリアンにとって、ふさわしいプロジェクトだと語ります。

「ほとんどのロータリアンは、意義

アルバータ協会について

アルバータ協会は、カナダ国内にある400以上の地域団体が組織される連盟に所属、ならびに110か国以上からなる国際的組織インクルージョンインターナショナル(Inclusion International)のメンバーでもあります。発達障害をもつ子ども、成人、また、その家族を支援しています。発達障害児をもつ家族に必要な手助けを行い、子どもにも成人にも教育を受ける手段をもたせ、また、成人には生活し、働き、地域社会生活に参加するための支援をしています。

写真上：ロータリアンのミハエル・ブランディング氏の会社の総務課で働くソフィー・コーネルさん 写真下：ロータリアンの支援によりエドモントンで仕事を見つけたミンディ・カリエルさん



のあるキャリアを積んでいます」と彼は言います。「彼らにも良き指導者がいたはずで、仕事とキャリアの価値を理解しています」。ウディツキー氏は、雇用主がかかわることは慈善行為ではなく、むしろ関係のある人すべてが利益を得るある種の共同契約なのだと言います。彼は労働者と雇用主のペアを作るのに投じられた時間からも、このプロジェクトの効果性をくみ取れると信じています。

「誰でもそうであるように、身体的に不自由な人たちも、自分によく合った仕事を見つければ調子が上がり、このプロジェクトは功を奏するのです」と彼は言います。

アクトン、マクドナルド、ウディツキー氏のように障害をもつ家族がいる会員にとっては、このパートナーシップはそれ以上の恩恵をもたらします。「地域社会のなかで、障害をもつ息子や娘をもっていない人たちがかわってくださると、本当に希望がわきま

す」とウディツキー氏は言います。「家族の一員として、(息子・娘のために)誰かが彼らの人生の扉を開いてくれると、大きな重荷を肩から下ろされたような気になります」

この活動は、ウディツキー氏などのような境遇の人たちが、私生活の重要な部分をほかのロータリアンと分かち合うことも、可能にしてくれます。アクトン氏の場合、先行きの不安を感じることなく、自分の娘の夢に将来を託せるようになりました。

今日、16歳の高校1年生に成長したエリンさんに将来の夢について聞いてみたら、学校で履修している美容の授業をどれだけ楽しんでいるかといった話が出るかもしれません。あるいは、子どもたちと過ごせるような、または動物の面倒をみられるような仕事をキャリアとして考えるかもしれません。夢を自由に追い求め、エリンさんは今や書ききれないほどの答えをもち合わせていることでしょう。